

# 博 慈 会

## 老研一口伝言

未病教育という米百俵。  
(動揺の時代に未来を考える)

いま、なぜか米の価格が高騰し、私たちの暮らしに小さからぬ動揺が広がっています。スーパーマーケットの棚に並ぶコシヒカリは約4400円/5kgと高止まりです。豊かな時代と信じて疑わなかった社会に、静かに確実に波紋が広がってきているのは確かです。

しかし、こうした動揺の中でこそ、一つの歴史の教訓をご紹介したいと思います。  
それは、戊辰戦争(1868年)で疲弊した長岡藩に贈られた「米百俵」の逸話です。

戦禍によって疲弊し、飢えに苦しんでいた長岡藩に対し、支藩の三根山藩から「米百俵」が贈られました。藩士や民衆たちは、今すぐこの米を分け与えてほしいと嘆願しました。しかし、藩の家老であった小林虎三郎は、この米をすぐには配らず、将来を担う子どもたちの教育資金にあてるため、学校建設に使ったのです。

「百俵の米は食べればすぐになくなる。しかし教育は未来を拓く」と、虎三郎は説きました。

では、この少子高齢時代において、未来への投資とは何でしょうか。私は、「未病教育」であると信じています。

健康と病気は連続しており、この間に未病の状態があります。病気に至る前に、体の異変に気づき、まず生活習慣を見直し、健康を回復する力を育てること。これを学校教育から始めるべきではないでしょうか。

### ● 義務教育としての未病教育を

幼いうちから自らの身体を知り、守れば自然と生活習慣が良くなります。それが「自分の健康は自分で守る」という無理なく意識改革と繋がります。そのシステムこそが、「未病教育」なのです。米百俵が未来の人材を育てたように、いま私たちは「未病教育」という百俵を取り込み、未来へと託すべき時ではないでしょうか。

米価格の高騰という主食が動揺する時代を迎えました。少子高齢社会の歪みの前兆と観てください。在庫米もいつかは底をつきます。これを機会に超高齢社会の健康維持システムの未来を考えてみましょう。即ち「社会の未病」に備えてください。これが私たちに与えられた現代の米百俵ではないでしょうか。

